

【重点目標】自ら考え、学び、ともに成長する、いきいきとした子ども



雨紛っ子

学校だより
令和8年度
第6号
令和8年10月30日

私らしく、あなたらしく

校長 佐藤 純一

最初に少し個人的な話をします。私の名前「純一」には「一」が入っていますが、これは私が長男であることを示しています。弟には「次」が使われ、妹には序数が使われませんでした。昭和期には「一」「二」「次」などの序数を名前に入れる習慣がありました。戦前から続く家制度の名残で、男子は家督を継ぐ存在として序列が重視されていたためです。女子は家督継承の対象ではなかったため、別の命名体系が発達しました。こうした命名の背景には、当時の社会が当然のものとして受け入れていた価値観が色濃く反映されています。

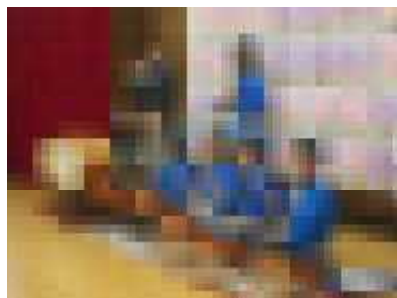
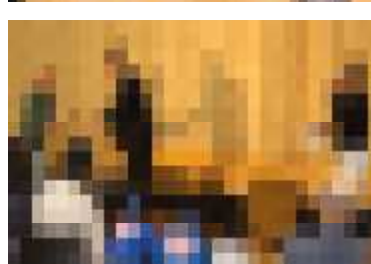
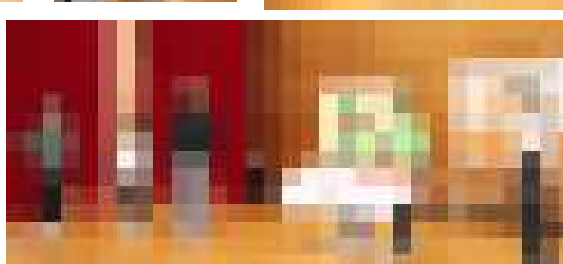
しかし、現代の視点で見ると、ここには「ジェンダー問題」が潜んでいることが分かります。ジェンダーとは、生物学的な性ではなく、社会が作り上げた「男らしさ」「女らしさ」の規範のことです。この規範は、知らず知らずのうちに私たちの行動や選択を縛り、「男は強くあるべき」「女は家庭を守るべき」といった固定的な役割を押しつけてきました。共働きが一般的になった現在でも、家事・育児の負担は依然として女性に偏っています。性別によって生き方や機会が制限される構造的な不平等は、今も社会に残っています。学校は社会の一部であり、こうした問題を他人事として扱うことはできません。

先月行われた後期児童会立会演説会で、会長に立候補した〇〇さんは次のように述べました。「性別に関係なく生活できる学校にしたい。男子だから、女子だからとこだわらずに遊びたい。名前を呼ぶときは、くんやちゃんではなく、さんに統一したい」。この演説を聞いたとき、私は胸が熱くなる思いがしました。子どもたち自身が、日常の中にある小さな違和感を見つめ、よりよい学校をつくろうとする姿勢に、強い希望を感じたからです。認証状を渡す際にもその思いに触れ、私自身も「さん」で呼称しますと伝えました。時に子どもたちの感性は大人よりもまっすぐで、社会の変化を先取りしているように思えます。

さて、今年の学芸会の劇「ふしぎな とびら」は、皆で創り上げた完全オリジナル作品です。夢には大きな力があり、言葉にすることで未来が動き出します。クライマックスでは、一人一人の子どもが「今思っていること」「これから挑戦したいこと」「なりたい自分」を自分の言葉で語りました。台本にはない、子どもたちの本心から出た言葉でした。男の子も女の子も関係なく、自分の夢をまっすぐに語る姿は、見ている私たちに大きな勇気を与えてくれました。子どもたちが自分らしさを大切に、他者の違いを尊重しながら未来を描く姿は、学校が目指すべき姿そのものです。

〇〇さんが掲げた公約が叶うよう、残りの学校生活でも、性別にとらわれず誰もが安心して楽しく過ごせる学校でありたいと強く感じています。子どもたち一人一人が「私らしく、あなたらしく」いられる場所を守り育てることが、私たち大人の役割だと思いました。

雨紛小学校 学芸会2026 行こう！自分たちの未来へ！



◆11月の予定◆

- 11月 3日（火）文化の日
- 6日（金）旭川複式連盟研究大会
- 9日（月）租税教室
- 12日（木）児童会⑨
- 17日（火）避難訓練
- 18日（水）本の読み聞かせ
三者協議会
- 20日（金）クラブ⑥
- 23日（月）勤労感謝の日
- 24日（火）諸費納入日
- 26日（木）地域公開参観日

地域の方々へお知らせ

『雨紛子市場(仮称)』開催のお知らせ

雨紛地区の皆様に向けて、雨紛っ子が育てた野菜を販売します。ぜひ、来てください！

*詳しくは、後日ご案内します。

□日 時 令和8年11月26日（木）5校時

□場 所 雨紛小なかよし広場（ホール）

□販売作物 カボチャ・ジャガイモ・小豆・
大豆・落花生など

□流れ（予定）

13:15 はじめの挨拶

13:20 各グループのアピール

13:25 販売開始

13:45 販売終了

